



## 「京都府南部弱視特別支援学級等担任向け研修」報告

**日時** 平成 29 年 6 月 13 日 (火) 13:45~17:00  
**テーマ** 「弱視児童生徒につけたい力」  
**指導助言** 府専門家チーム 森上 和 氏



今年度、京都府南部地域には、弱視特別支援学級が4校に設置され、通常の学級で学ぶ弱視児童生徒も複数名います。それぞれの学級で弱視児童生徒の指導にあたっている先生方は、日々、孤軍奮闘されています。その先生方が一同に集まり、弱視児童生徒の教育について意見を交換できる貴重な機会になりました。

今年度は、京田辺市の小学校を会場にお借りし、弱視児童が通常の学級で学ぶ様子、弱視特別支援学級での「自立活動」の取組の様子を参観させていただきました。「自立活動」の授業では、生活に活かせる力、次の学習場面に活かせる力をつける観点を盛り込んだ内容が展開され、とても参考になりました。



また、参加の先生方には「弱視児童生徒につけたい力」をテーマに、弱視児童生徒が効率よく学習をすすめていくために必要になる力について考えながら参観をし、協議交流で意見を出し合っていました。視覚補助具の活用に関する力として、活用技能を高めるだけでなく、必要な場面に応じて適切な機器を選択できる力の必要性を改めて確認しました。その中で、視覚補助具を活用することに心理的な抵抗を感じている子どももいること、また、「みんなと同じようにしたい」との思いをどの子どもも持っていることが分かりました。子どもの気持ちを受け止めること、また、乗り越えて行けるように支えていくことの大切さにも気づかされました。

最後の森上先生の指導助言では、弱視児童生徒に「見る力」をつけていくこと、その中で、自分の見え方を知り、どうすれば見えるのかを理解していくことは、障害の受容にもつながり、その先の生き方や人格形成にも繋がっていくことなどをお話いただきました。



### <参加者アンケートより 感想>

- ・弱視学級では、自立活動の指導で大切な本人の興味関心を活かしておられたことや日々の日常生活につながる指導内容の工夫されていたことは大変勉強になりました。交流学級でも自立活動の時間の指導として行っておられることを活かして、学習している点も参考になりました。
- ・今、目の前にいる子どもにどんな力をつけたいのかを明らかにし、将来を見据えた指導をされていることが素晴らしいと思いました。教科学習の指導に手いっぱいであった毎日を反省しました。
- ・実際の指導の中で色々な支援を工夫され、1年生から積み重ねておられる成果は子どもの素晴らしい力となって表れていたと感じました。障害のある子どもも通常学級と一緒に当たり前で学ぶ、そのような学校となるよう私達は努力しなければと思いました。